

任せる

【「任せる」とはどういうことか、この先生から教えてもらった。しかし、なかなかこのようにはできない】

生徒を指導している時、何をしてもうまくいかず、指導が空回りしているような焦燥感に駆られることがある。その生徒に対してもさまざまな指導をしてきたのだが、目に見える変化がなく、私たちは戸惑っていた。

ある日、私は校長室に呼ばれた。その生徒に積極的に関われ、ということであった。教科担任はしているが、担任している学年ではない生徒の指導を任されるのが少し意外であった。まして、私は生徒指導担当ではない。どうも、「武田の言うことならその生徒は少しは聞く」、というような情報が校長先生に入ったらしいのだ。校長先生はこんな私に任せてみようと考えられたのだと思う。それほど、何をしてもうまくいかなかったのだ。

今まで多くの先生たちが、苦勞し、工夫し、粘り強く指導してきた生徒だ。私などが、何かをしてうまくいくものではない。しかし、校長先生に任せられたのだからと思い、私は全力でその生徒に関わり、指導を繰り返した。だが、現実には厳しかった。少しわかってくれたかな、と思うと、問題を起こす。その繰り返しであった。

3か月ほど経って、私は校長室のドアを叩いた。

「校長先生すみません。うまくいきません」

そう言う私に、校長先生はこう言った。

「そうかあ。武田がやっただめなら仕方ないな」

私が悪戦苦闘する3か月の間、校長先生は何も言わなかった。うまくいかない私の指導を見て、言いたいこともあっただろうに。そして、結局だめだった、と報告に行った私を責めることもしなかった。人に任せると言うことは、こういうことだと私は知った。任せると言うことは、それだけの覚悟を持つことなのだ。「任」は「忍」である。私の悪戦苦闘の3か月は、校長先生にとっては、忍耐の3か月だった。そして、3か月後、校長先生は私の努力を認めてくれた。「任」は「認」なのである。人を育てると言うことはこういうことだと思った。しかし、今の私は「任せた」と言いながら、すぐに口を出してしまう。教えていただいたことが、身になっていない。

その後、その生徒は校長先生が打った次なる手で少し変わっていった。まだまだ私は足元にも及ばない。